

## 灯のつどい

時 間	1時間	対 象	幼児以上
人 数	300人程度	経 費	0円

- ・ 厳粛な雰囲気を作り、思索と内省を促し、また、楽しい交歓を通して互いの連帯感を高めることができます。
- ・ 家族や仲間感謝する心を持ち、今後の生活をよりよくしようとする意識を高めることができます。

高まりが期待できる 非認知能力	コミュニケーション力、協働力、自立性、自己肯定感、自己管理能力
団体に準備する物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動に適した服装、水筒 等</li> <li>・ スタンツ用 BGM 等</li> <li>・ 役割分担（営火長、親火、子火1～4、進行）</li> </ul>
センターで準備する物	ろうそく、燭台、ブルーシート、トーチ、ワイヤレスアンプ 等

### 活動の内容

- 屋外で行うキャンプファイヤーに似た活動で、室内で行う活動です。  
（迎え火の式、スタンツ(グループ発表等)、送り火の式の3部構成で行います。）
- 次ページ以降に進行例と各系のセリフがあります。  
（灯のつどいの様子）



#### [その他]

- ・ お互いに声をかけ合って、水分補給等の熱中症対策を行ってください。

# 灯のつどい（小・中学校向け）

## <第1部：迎え火の式>

- 参加者入場（静、動、静の流れについて、事前に十分指導しておく）
  - 燭台を丸く囲む形で座る。係は階段下に待機し、親火のろうそくだけに火をつけてもらう。
  - 納火の方法について理解する。（灯を左手に持ち替えて息をふきかけて消す。）
- 開会の言葉（BGM ON）  
「ただいまから、（小・中学校名・人員）による灯のつどいを行います。」
- 「希望の火、入場」
  - 親火、子火4、子火3、営火長、子火2、子火1の順に入場
- 「営火長は点火の宣言をお願いします。」
  - 営火長は「点火」と宣言する。
  - 親火は、燭台最上部の一本に点火する。
- 「親火は、灯に捧げる言葉をお願いします。」

### ※ 親火の言葉

私たち「（小・中学校名）」の〇〇名は、この青少年研修センターにおいて灯を囲むことになりました。一緒に活動し、生活する中で、今まで知らなかった友だちの素晴らしい姿を発見し、友情を深めるよい機会となりました。また、集団生活の厳しさ・楽しさも分かってきました。今夜は、仲良く、楽しく、心に残るつどいにしたいと思います。そして、これを機会に自らを高め、明日からの生活に役立てていきたいと思っています。

- 「親火は、子火に呼びかけて分火してください。」 ※ 営火長にも火を分ける。

親火の呼びかけ		子火の誓いの言葉
「強い心と体の持ち主になるために」 （分火）	子火1	「私たちは、心と体を鍛え、どんな困難にも負けず、最後までやり抜く強い心と体の持ち主になるよう努めます。」
「いつまでも変わらない友情のために」 （分火）	子火2	「私たちは、この素晴らしい友情をさらに深め、これからの人生を共に助け合い、励まし合っていくことを誓います。」
「豊かな心の持ち主になるために」 （分火）	子火3	「私たちは、自分のことだけでなく、他人の立場を考え、親切で思いやりのある心の持ち主になるように心がけます。」
「一日一日に全力を尽くすために」 （分火）	子火4	「私たちは、一日一日を反省し、明日に向かって全力を尽くし、悔いのない毎日を過ごすように努めます。」

- 「係の皆さんは、中央燭台へ点火してください。」
  - 係は前に進んで上部のろうそくから点火し、終了したら一斉に定位置に戻る。
- 「営火長は迎え火の言葉をお願いします。」

### ※ 営火長の言葉

今夜は、（小・中学校名）の皆さんとこうして灯のつどいを開くことができることを心からうれしく思います。このつどいが、さらに友情を深め、団結を強めるものとなり、今後の生活の向上につながるものとし、いつまでも心のアルバムに残るものとなるよう希望して、迎え火の言葉とします。

- 「それでは、周りの皆さんにも灯を分けてあげたいと思います。周りの皆さんは、ろうそくを右手に持って、静かにお立ちください。」  
「係の皆さんは、周りの皆さんにも灯を分けてあげましょう。」

10 呼びかけのナレーションを入れる。

※ 迎え火の呼びかけ

親火に導かれた一本の<sup>ともしび</sup>灯から今、ここに集まった全員の手で灯が移されました。灯が一人一人の手に移されていく<sup>さま</sup>様は、まるで、皆さんの心が一つの大きな輪になっていくようです。

手にしている灯を目の高さまで掲げ、じっと見つめてみましょう。私たちの命もその灯と同じように、この地球上に生物が誕生してから、何億年ものほらかな昔から、一度も<sup>とぎ</sup>途絶えることなく、親から子へ、子から孫へと受け継がれてきたものです。その命のつながりの中に、私たちが存在しているのです。

私たちは、受け継がれた命の尊さを自覚して、これからもしっかり受け継いでいくために、たくさん学び、友だちと触れ合って充実した学校生活を送らなければなりません。

今、皆さんが手にしている灯が、我が身をすり減らしながら周りを暖かく、明るく照らし続けているように、私たちも<sup>たゆ</sup>弛まぬ努力によって自分自身の夢や目標を実現していきましょう。

11 「それでは、灯を左手に持ち替えてください。今の素直な気持ちを忘れることがないように、しっかりと自分の胸に納めながら、灯を静かに<sup>のうか</sup>納火してください。」

12 「以上で迎え火の式を終わります。全員その場に腰をおろしてください。」

13 親火、子火の皆さんは退場します。

## <第2部 交歓のつどい>

14 「静かな中で第1部のセレモニーが終わりました。これからレクリエーションに入ります。歌やゲームで大いに楽しみましょう。」

## <第3部 送り火の式>

- ・ 係は燭台を囲むように定位置に着く。

15 「これから送り火の式をおこないます。」

16 「営火長は送り火の言葉をお願いします。」

※ 営火長の言葉

厳粛な迎え火の式では、点された灯に自らの心を映し出し、これまでの生き方を振り返ることができました。また、第2部では、レクリエーションを通してお互いの心を開き、絆を深め、心の灯をいっそう明るいものにすることができました。この素晴らしいひと時の経験が、明日からの皆さんを支える礎となることを希望して、送り火の言葉といたします。

17 「子火の皆さんは、最上部の一本を残して、燭台の火を納火してください。」

- ・ 子火は下部の方から消す。

18 呼びかけのナレーションを入れる。

※ 送り火の呼びかけ

館内に広がった灯は、今、全員の心をまとめて中央<sup>しよくだい</sup>燭台の一本の灯に返りました。先ほどまで賑やかで楽しかった時間から一変して、再び<sup>せいじやく</sup>静寂が戻って参りました。お互いの出会いに感謝し、さらにふれあいを深め、明日からの生活を希望に<sup>あふ</sup>溢れた素晴らしいものにしてください。

そして、皆さん一人一人が、一本の小さな灯のように、周りを明るく、暖かく照らしながら、それぞれの目標に向かって、心の灯を燃やし続けましょう。

19 「それでは、親火は最後の一本を送り出してください。」

20 「以上で灯のつどいのすべてを終わります。」

- ・ 参加者は安全面に留意して退場する。